

長崎県観光動向調査 (令和3年4～6月分)

● 主要指標

令和3年4～6月

	対象施設	延べ宿泊客利用者数	R3-R2 同期比		(参考)R3-R1 同期比
			増減率	増減数	増減率
主要宿泊施設	201	625千人	+85.2%	+287千人	▲56.1%
主要観光施設	28	506千人	+97.9%	+250千人	▲71.3%

(参考) 令和3年1～3月

	対象施設	延べ宿泊客利用者数	R3-R2 同期比		(参考)R3-R1 同期比
			増減率	増減数	増減率
主要宿泊施設	201	619千人	▲38.1%	▲380千人	▲55.0%
主要観光施設	28	499千人	▲47.0%	▲443千人	▲61.8%

	主要宿泊施設客室稼働率	前年同期比(ポイント)
4～6月累計	36.7%	+7.1
4月	42.5%	+21.4
5月	31.4%	+7.1
6月	36.0%	▲8.5

● 概況

- 主要宿泊施設の宿泊客数は、昨年の4月から5月にかけて新型コロナウイルス感染拡大に伴い国の緊急事態宣言が発令されていたことと、一方で、今年の4月は県の宿泊割引キャンペーンが実施されたことなどから、4～6月期全体では対前年比+85.2%となったものの、修学旅行の中止・延期や大型連休中の長崎市内における外出自粛要請等の影響に伴う旅行需要の減少は大きく、対前々年比は、同期比▲56.1%と、依然として持ち直したとは言えない状況である。
- 主要観光施設の利用者数は、昨年は県内の多くの主要な観光施設が休館し、著しく落ち込んだことからその反動で、4～6月期の対前年同期比は+97.9%となった。本年も長崎市などの施設が4月から5月にかけて臨時休館を余儀なくされたことから、対前々年比では同期比▲71.3%と、宿泊客数と同様、依然として持ち直したとは言えない状況である。

ブロック別の主な増減要因

【長崎・西彼ブロック】

4～6月期の宿泊客数の対前年同期比は+90.7%であったものの、県独自の緊急事態宣言の影響で、昨年引き続き多くの主要な観光施設が休館となったことによる旅行需要の大幅な低下や修学旅行の中止・延期などにより、対前々年同期比は▲61.9%と、減少幅が他ブロックより大きい結果となった。

【佐世保・西海・東彼・北松ブロック】

佐世保地区の米軍基地関連のアメリカの宿泊需要は堅調に推移し、4～6月期の宿泊客数の対前年同期比は+145.7%であったものの、ハウステンボスの営業時間の短縮や一部施設の営業休止などの影響により対前々年同期比は▲56.1%となった。

【平戸・松浦ブロック】

大規模改修工事により長期休館していた平戸城天守閣が4月1日にリニューアルオープンしたことや松浦地区の工事関係者の宿泊需要が堅調に推移したことなどから4～6月期の宿泊客数の対前年同期比は+82.8%であったものの、新型コロナウイルスの新規感染者大幅拡大の影響から、対前々年同期比は▲49.6%となった。

【諫早・大村ブロック】

ビジネス客の宿泊需要が堅調に推移したことから、4～6月期の宿泊客数の対前年同期比は+42.9%となり、対前々年同期比も▲19.0%と他ブロックと比べ減少幅が少ない結果となった。

【島原半島ブロック】

4～6月期の宿泊客数の対前年同期比は+46.8%であったものの、新型コロナウイルスの新規感染者大幅拡大の影響を受け、宿泊キャンセルが相次いだことなどから、対前々年同期比は▲58.1%となった。

【五島ブロック】

ビジネス客の宿泊需要が堅調に推移したことなどから、4～6月期の宿泊客数の対前年同期比は+100.4%と大幅に増加したものの、旅行需要は引き続き低調に推移したことから、対前々年同期比は▲45.9%であった。

【壱岐ブロック】

4月まで実施した県、市の宿泊割引キャンペーンの効果などにより4～6月期の宿泊客数の対前年同期比は+67.1%であったものの、5月以降は宿泊キャンセルが相次いだことなどから、対前々年同期比は▲56.7%であった。

【対馬ブロック】

4～6月期の宿泊客数の対前年同期比は+66.2%であったが、一昨年と比べると韓国人観光客が激減したこと、また、国内旅行需要が引き続き低調に推移したことから、対前々年同期比は▲72.8%となった。

【参考】外国人観光客（宿泊客）の動向

佐世保地区における米軍基地関連のアメリカの宿泊需要が堅調に推移していることなどから、4～6月期の外国人宿泊客数は対前年同期比+201.1%であったが、依然として多くの国・地域で海外渡航制限等の措置が取られていることから、対前々年同期比は▲89.4%と大幅に減少した。

(参考資料)



